

# 生活行為分析から見た居室の使われ方に関する研究

## その1 中層耐火集合住宅（2K, 2DK, 2LDK, 3K）の場合

中 島 一・松 本 壮一郎

### Study on the Way of Using the Living Space by Analyzing the Life Behavior Part I

Hajimu NAKAJIMA and Souichiro MATSUMOTO

The housing supply has been planned a turnabout from the quantity to quality.

We researched the life behavior in the living space and aimed at the rational life and the classification of the living style.

This is the basic study which seeks for the settlement of the new housing and living notion.

#### 1. はじめに

集合住宅は、職業・収入・家族構成の違う不特定の居住者を対象に建てられ、その計画に当っては、各居住者の的確な把握と、その対象に適合しうるような設計上の対応が必要である。このため、現存する集合住宅では、規模・形式・家賃・住戸タイプ・住様式などの違うさまざまなものが建設され、居住者が自分の個性に応じ、要求に応じて好みの住戸を選び、住戸をしつらえて生活出来る様に配慮されている<sup>1)</sup>。

しかし、現実の集合住宅居住者の不満を調査<sup>2)3)</sup>すると、生活の合理性と土地の有効性等に主眼を置いた画一的な間取りとの批判を受け、異なった様々な住要求を持つ居住者の希望に応じきれない一面を持っている。

本研究は、与えられた住空間に生活に対応させなければならない集合住宅居住者の住戸内外で行なわれる様々な生活行為を11項目53個に分類し、これをもとにした居室の使われ方に関する実態調査をとおし、各居室で行なわれる生活行為を整理し、①各居室における生活行為の相互関係、②各居室の使われ方から見た生活行為の類型化等を行ない、これまで居室の広さ、居室の数で進められた住戸の評価（計画）を、居室で行なわれる、生活行為と生活行為の組み合わせから評価（計画）する方法を探り、時代経過と共に変化する人々の生活心情に対応する今後の集合住宅、特に、住戸計画のあり方を求める一連の基礎的な調査、研究である。

表1 アンケート票配布数

住戸タイプ	2 K	2DK	2LDK	3 K	合計
配布団地名	星ヶ丘	藤山台	藤山台	藤山台	
配布数	40	40	40	40	160戸
回収数	35	35	39	36	145戸
回収率	87.5	87.5	97.5	90.0	90.6%

表2 調査対象者の概要 (戸・%)

住戸タイプ	2 K	2DK	2LDK	3 K	合計	
合計	35 100	35 100	39 100	36 100	145 100	
回答者の年齢	25才以下	5 14.3	7 20.0	7 17.9	2 5.6	21 21.6
	26才から30才まで	8 22.9	13 37.1	24 61.5	8 22.2	53 36.6
	31才から35才まで	7 20.0	9 25.7	4 10.3	15 41.7	35 24.1
	36才から40才まで	5 14.3	2 5.7	2 5.1	4 11.1	13 9.0
	41才以上	8 22.9	1 2.9	2 5.1	5 13.9	16 11.0
	不明	2 5.7	3 8.6	—	2 5.6	7 4.8
家族数	2人以下	12 34.3	8 22.9	7 18.0	6 16.5	33 22.6
	3人	8 22.8	15 42.9	16 41.0	4 11.1	42 29.0
	4人	11 31.4	9 25.7	15 38.5	24 66.7	59 40.7
	5人以上	3 8.6	1 2.9	1 2.6	2 5.6	7 4.8
	不明	1 2.9	2 5.7	—	—	4 2.8
家族型 (年齢で分類) (夫婦と長子のみ)	夫婦のみ	6 17.1	4 11.4	7 17.9	6 16.7	23 15.9
	夫婦と乳児・幼児	9 25.7	21 60.0	25 64.1	11 30.6	66 45.5
	夫婦と小学生	7 20.0	2 5.7	6 15.4	12 33.3	27 18.6
	夫婦と中学生以上	6 17.1	1 2.9	1 2.6	7 19.4	15 10.3
	欠損家族	1 2.9	4 11.4	—	—	5 3.4
	単身者のみ	5 14.3	—	—	—	5 3.4
	不明	1 2.9	3 8.6	—	—	4 2.8
居住年数	1年未満	2 5.7	—	8 20.5	3 8.3	13 7.0
	1年から3年未満	7 20.0	9 25.7	8 20.5	4 11.1	28 19.3
	3年から5年未満	5 14.3	10 28.6	9 23.1	5 13.9	29 20.0
	5年以上	20 57.1	15 42.9	13 33.3	24 66.7	72 49.7
	不明	1 2.9	1 2.9	1 2.6	—	3 2.1

表3 生活行為の分類

(就寝する) 主人が就寝する 主婦が就寝する 子供が就寝する	(身だしなみを整える) 顔・歯をみがく 主人が髪型をする 主婦が化粧・整髪をする 子供が整髪等をする 入浴前・後の脱衣・着衣 朝、起きてからの着がえ 外出するときの着がえ 主人の帰宅後の着がえ 突然の来客での身繕い
(食事をする) 朝食をとる 昼食をとる 夕食をとる 夜食をとる	(家事・育児をする) 洗濯をする 洗濯物を干す 洗濯物をたたむ フロンを干す 縄物をする ミンを踏む 裁縫をする アイロンをかける 内職をする 子供(0~3.4才)の屋敷 子供(0~3.4才)を遊ぶ
(調理をする) 料理の盛付をする 炊事・調理をする	(客を泊める) 突然の来客を泊める 前もってわかっている 来客を泊める
(団らんをする・くつろぐ) 団らんをする 新聞・雑誌等を気軽に読む 1人酒を飲む 屋敷・ごろねをする ちょっとした催し物 テレビを見る	(客を泊める) 突然の来客を泊める 前もってわかっている 来客を泊める
(勉強をする) 家計簿・雑誌等を気軽に読む 主人が勉強する 主婦が勉強する 子供が勉強する・遊ぶ	(客を泊める) 突然の来客を泊める 前もってわかっている 来客を泊める
(客と対応する) セールス・御用聞き等と 対応する 突然の来客と対応する 前もってわかっている 来客と対応する	(物を置く) 古新聞を置く 洗濯物を置く あき瓶・缶等を置く
(客を泊める) 突然の来客を泊める 前もってわかっている 来客を泊める	

表4 住居規模から不都合を生じる生活行為 (戸)

	合 計	家 族 数					団らんが行なわれる 部屋での生活行為数													
		2人 以下	3人	4人	5人 以上	不 明	9 以下	10 以下	11 以下	12 以下	13 以下	14 以下	15 以下	16 以下	17 以下	18 以下	19 以下	20 以上	25 以上	不 明
対象者数	145	38	49	59	7	3	4	5	8	21	24	38	35	10						
同行な わられる 時間差 を確保 する部 屋で同 時に	食事と来客の訪問	73	15	13	39	5	1	3	3	4	11	12	20	16	4					
	団らんと来客の訪問	46	13	9	21	2	1	3	1		8	8	12	11	3					
	テレビと静かな行為	36	6	11	16	4		1	1	1	2	8	15	7	2					
	音、同志の行為	29	5	8	11	4	1	1	1	1	4	4	12	4	2					
	静かな行為と子供遊び	44	2	14	24	2	2	2	3	2	1	5	17	13	1					
住宅規模などの理由から不都合な問題が生じたことのある生活行為	特にない	38	14	13	8	2	1	1	1	1	6	7	6	12	4					
	不明	5	3	1	1	1									2	1				
	就寝する	49	11	10	23	3	2	2	2		4	11	14	12	4					
	食事をする	30	4	3	20	2	1	2	1				7	11	8	1				
	団らんをする	6	1	1	3	1			1	1			1	2	1					
	調理をする	25	5	3	14	1	2	1	1	2	6	8	7							
	勉強をする(主人)	38	6	12	16	4		2	1	1	6	6	12	10						
	勉強をする(子供)	23		4	13	4	2	1		1	4	4	7	5	1					
	ミンを踏む	31	6	5	14	4	2	1		1	6	4	12	7						
	フロンを干す	21	2	10	8		1		1		2	4	6	7	1					
	アイロンをかける	9	3	1	4	1					2	3	2	2						
	洗濯をする	17	2	3	11		1			1		3	8	5						
	洗濯物をたたむ	7		2	4	1						1	4	2						
	洗濯物を置く	18	4	2	10	1	1		1	1	2	4	8	2						
	前もってわかっている来客を泊める	90	16	22	43	6	3	4	4	4	11	16	23	23	5					
突然の来客を泊める	50	8	13	24	3	2	3	3	4	4	7	16	10	3						
音楽を聴く	15	4	2	7	2			1		2	3	6	3							
趣味を楽しむ	30	3	5	19	3	2			1	5	6	9	6	1						
楽器の演奏	13	2	4	4	3					2	1	7	1	2						
古新聞を置く	34	10	8	13		3		2		4	6	12	7	3						
あき瓶を置く	32	6	9	16		1		2	1	2	5	15	7							
本等を置く	15	6	1	6	2					2	4	5	4							
特にない	12	5	3	3	1		1	1	1	4	4	1	1	3						
不明	3	1	1	1					1	1	1	1								

2. 調査方法と調査対象者の概要

集合住宅居住者を対象に居室の使われ方に関する実態調査を行なった。調査の項目は、家族構成、生活姿勢等の一般事項、生活行為空間とその行為に対する意識、空間への雰囲気、生活への工夫などからなり、各居室で行なわれる生活行為を出来るだけ詳細に把握出来るよう配慮した。

調査対象住戸は、住宅都市整備公団の星ヶ丘、藤山台の2団地より、住戸タイプ2K、2DK、2LDK、3Kの4タイプを選び、各タイプ40戸の合計160戸を対象とした。調査票への回答者は、住居内のマネージメントとしての役割をもつ主婦とし、予め用意した調査票を配布し、直接記入願ひ、2~3日後に回収する方法をとった。

調査期間は、昭和56年11月上旬で、回収結果は145戸90.6%であった。

調査対象家族の概要を表2に示した。

回答者の年齢は26才から35才までに60%の者が集中し、90.3%の家族が夫婦家族で、その内、48.5%の家族

が学令前の長子を持つ家族であり、比較的若い家族型の対象である。

調査に使用した生活行為を表3に示した。

3. 調査結果と考察

3.1 各居室で行なわれる生活行為について

図1~4は、表3に示した生活行為がどの居室で行なわれているかをまとめたものである。

これによると、2K、2DK、2LDK、3K型の住戸における北側に面した和室であるA室での生活行為は、主に"主人が就寝する、" "主婦が就寝する、" "子供が就寝する、" "突然の来客を泊める、" "前もってわかっている来客を泊める、" "朝、起きてからの着がえ、" "外出するときの着がえ、" "主人の帰宅後の着がえ、" "突然の来客での身繕い、" などプライベートな空間として使用されている。また、K、DK、LDK室に隣接したB室は、"料理の盛付をする、" "炊事・調理をする、"などを除いた就寝、食事、団らん、勉強、家事・育事など多様な行為に、同時または時間差をつけて使用させており、特に2K、3K型におい

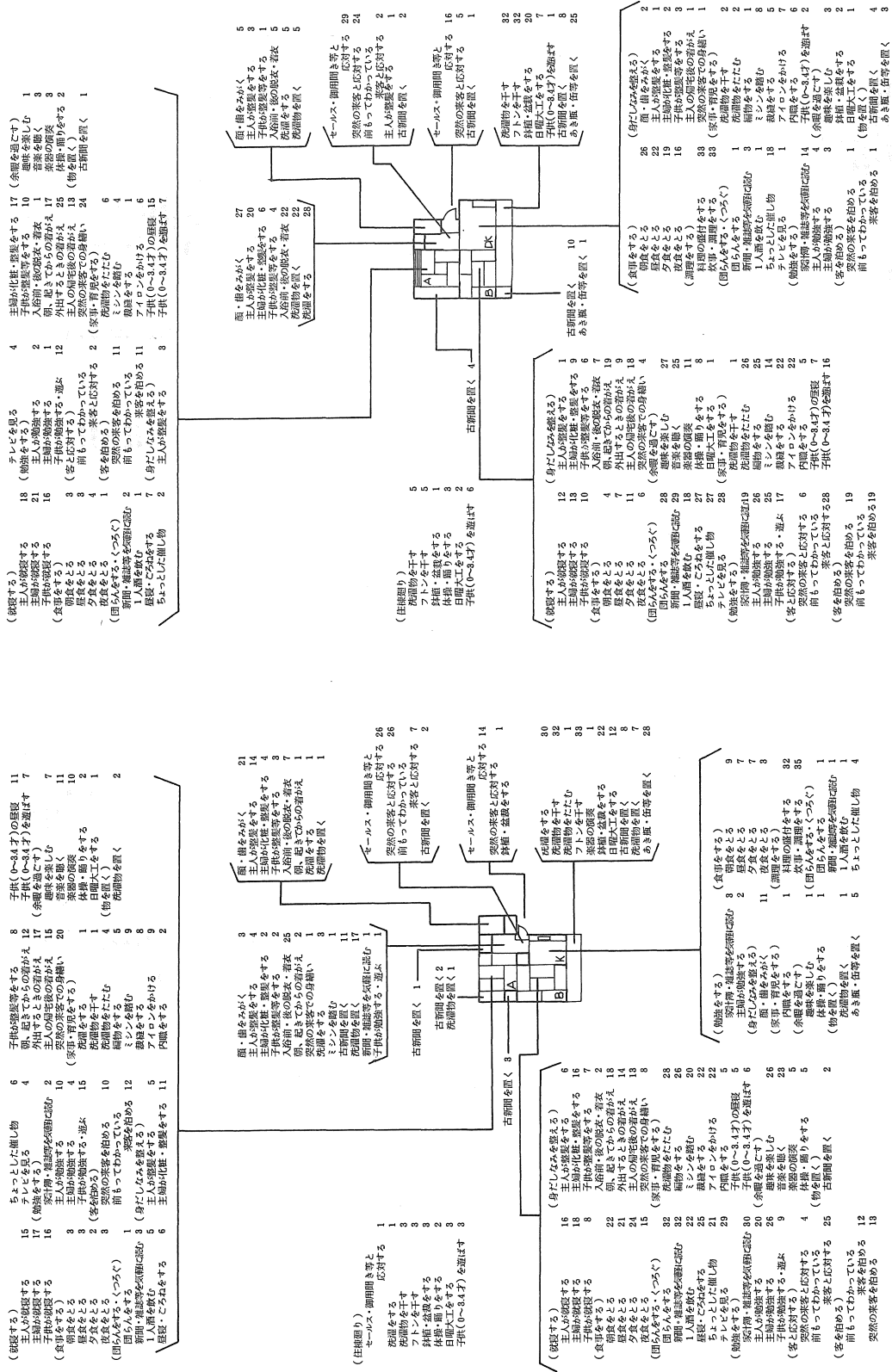


図 1 各居室での生活行為について (2K型 35戸の延数)

図 2 各居室での生活行為について (2DK型 33戸の延数)

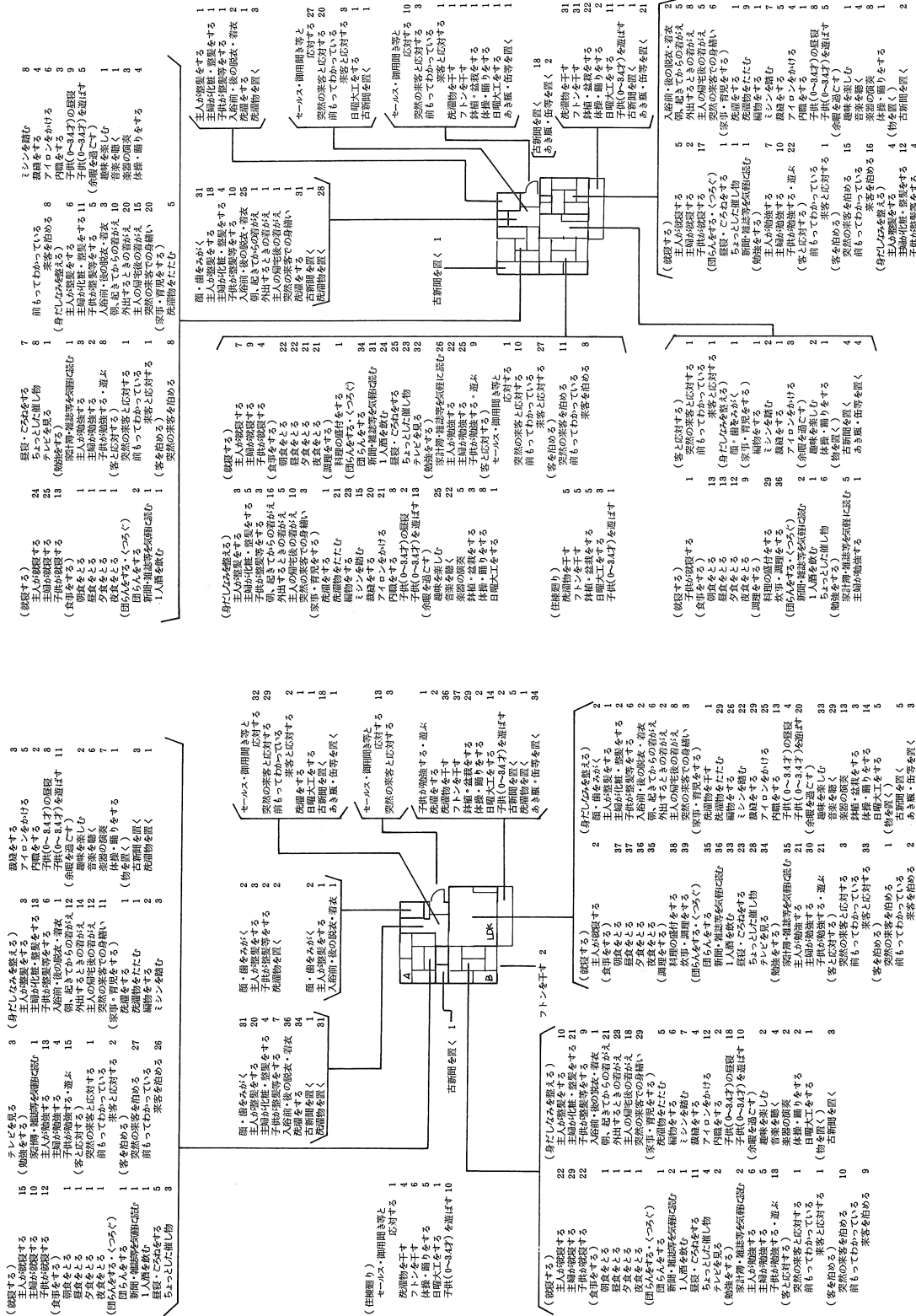


図 4 各居室での生活行為について (3 K型 36戸の延数)

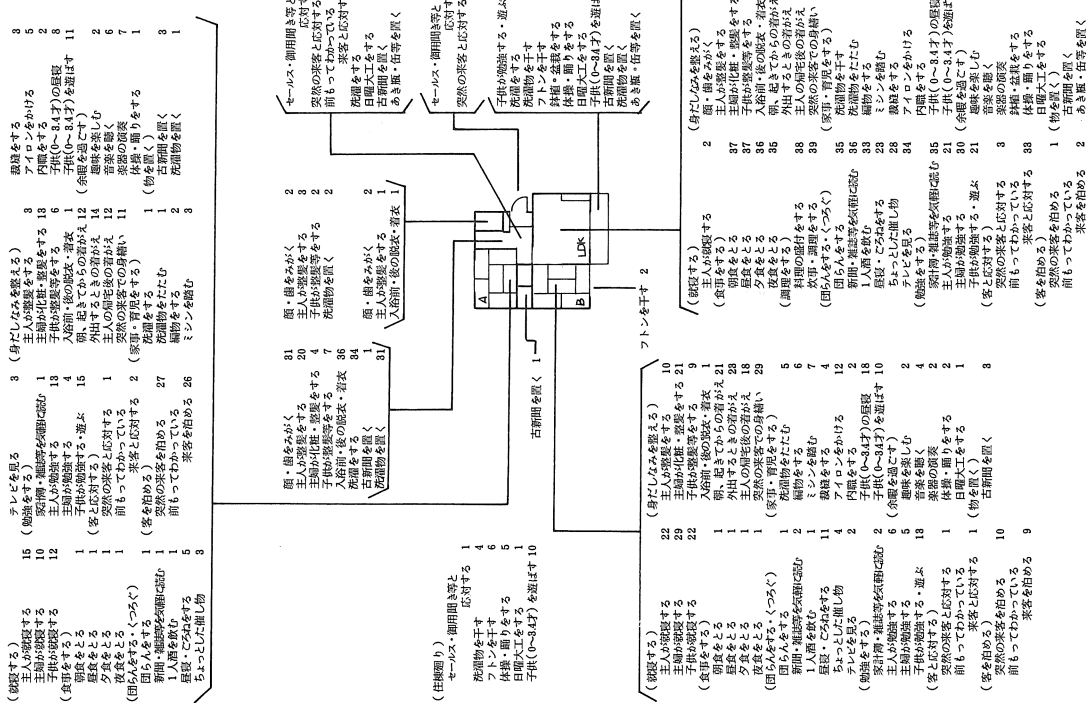


図 3 各居室での生活行為について (2 LDK型 39戸の延数)

てその傾向が強くみられた。

3 K 型の C 室（南向きの 4.5 帖の和室）では、「子供が就寝する」、「子供が勉強する・遊ぶ」、「突然の来客を泊める」、「前もってわかっている来客を泊める」に使われる住戸が多かった。

2 K 型と 3 K 型の K 室の使用については、「料理の盛付をする」、「炊事・調理をする」の行為だけに使用する住戸が多い。しかし、一部の住戸においては、隣室の B 室と連結させ食事室にも利用されている様子で、特に 3 K 型の 8 戸は K 室のみで食事が行なわれていた。

2 DK 型の DK 室、2 LDK 型の LDK 室の使用については、食事、団らん、勉強、家事の行為を中心に、2 K、3 K 型の B 室とほぼ同様の使われ方が見られた。

表 4 に、「同室または隣接する部屋で同時に行なわれる時、不都合が生じる生活行為の組み合わせ」「住居規模などの理由から不都合な問題が生じたことのある生活行為」を示した。住戸型による違いは見られなかったが、来客との関係、親と子供との関係において、問題が生じている傾向が何え注目する必要がある

3. 2 各居室における生活行為の相互関係について

各生活行為の相互関係（行為ごとに同室で行なわれる比率）を表 5 に示した。この表から当然のことではあるが、3 K 型、2 DK 型、2 K 型と住居規模が小さくなるにつれ各生活行為が同室で行なわれる比率が高くなる傾向が分かる。また、2 LDK 型で同室で行なわれる比率が高いのは、LDK 室において、食事、調理、団らんを中心に生活行為が集中するためと考えられる。

また、個々の生活行為の相互関係を見ると、「団らんをする・くつろぐ」の行為では、「食事をする」「勉強をする」「家事・育児をする」の行為との同室使用が多く、団らんが日常生活の中心になっている様子が見える。反面、「客を泊める」の行為は「身だしなみを整える」「家事・育児をする」「余暇を過ごす」の行為との同室使用が多く、日常生活の中心になる部屋の使用が少ないことが分かる。

3. 3 各居室の使われ方から見た生活行為の類型化について

細分化した 53 の生活行為が行なわれる居室を、居室数、居室の大きさ、居室の方位から探ぐり、生活行為の類型化を行なった。

各生活行為の使用する居室数（K・DK・LDK も一室と考える）を見ると、1 部屋のみで行なわれる行為としては「食事をする」「客と応対する」「家事・育児をする」などの行為があり、2 部屋以上の居室を使用する行為には「就寝する」「団らんをする・くつろぐ」「勉強をする」「余暇を過ごす」などの行為があげられる。このことか

表 5 一室における生活行為の相互関係

	2 K	就寝する	食事を する	調理を する	団らんを する くつろぐ	勉強を する	客と 応対 する	客を 泊める	身だし なみを 整える	家事・ 育児を する	余暇を 過ごす								
2 DK	43.1	—	64.7	72.5	31.4	27.5	82.4	62.7	58.8										
就寝する		20.5	24.4	84.4	80.0	48.9	26.7	64.4	68.9	64.4									
食事を する		—	60.5	—	—	—	31.4	2.9	2.9										
調理を する			61.4	55.8	28.6	—	74.5	45.5	36.4	67.3	76.4	74.5							
団らんを する くつろぐ					59.1	67.4	42.9	81.1	—	44.6	37.5	73.2	76.8	71.4					
勉強を する						38.6	27.9	—	54.7	48.8	—	44.0	84.0	96.0	88.0				
客と 応対 する							43.2	16.3	2.9	43.4	37.9	6.0	—	61.5	76.9	80.8			
客を 泊める								93.2	39.5	14.3	62.8	62.1	76.7	84.4	—	68.5	52.3		
身だし なみを 整える									79.5	72.1	22.9	88.7	89.7	96.7	93.8	81.7	—	75.5	
家事・ 育児を する										50.0	34.9	5.7	64.2	56.9	90.0	71.9	50.0	66.2	
余暇を 過ごす																			

	2 LDK	3 K	就寝する	食事を する	調理を する	団らんを する くつろぐ	勉強を する	客と 応対 する	客を 泊める	身だし なみを 整える	家事・ 育児を する	余暇を 過ごす							
2 LDK	3.6	3.6	38.9	57.1	3.6	32.1	76.8	48.2	25.0										
3 K		18.3	94.9	100	97.4	89.7	7.7	41.0	92.3	94.9									
就寝する			2.8	36.6	—	94.9	92.3	84.6	5.1	41.0	89.7	94.9							
食事を する				38.0	78.0	21.6	—	85.2	59.0	18.0	55.7	82.0	70.5						
調理を する					64.8	78.0	16.2	74.6	—	44.3	32.9	51.9	68.4	64.6					
団らんを する くつろぐ						15.5	56.1	8.1	49.2	37.5	—	11.1	44.4	94.4	97.2				
勉強を する							29.6	24.4	2.7	20.3	85.0	36.4	—	53.7	56.1	39.0			
客と 応対 する								57.7	34.1	—	54.2	51.3	48.5	59.5	—	60.6	35.2		
客を 泊める									62.0	63.4	10.8	69.5	67.5	84.8	75.7	75.8	—	61.3	
身だし なみを 整える										32.4	63.4	10.8	55.9	52.5	75.8	45.9	40.3	52.1	
家事・ 育児を する																			
余暇を 過ごす																			

ら各生活行為が使用する居室数は、行為の内容で決まるのではなく、行為を行なう形態により決まることが伺える。

大きな居室（6 帖以上）でしか行なわれない行為には「団らんをする」、「新聞・雑誌等を気軽に読む」、「1 人酒を飲む」、「昼寝・ごろ寝をする」、「テレビを見る」、「突然の来客と応対する」、「前もってわかっている来客と応対する」、「洗濯物をたたむ」、「編み物をする」などがあり、小さい居室（4.5 帖以下）でも行なわれる行為には主人、主婦、子供の就寝がある。

また、南向きの居室でしか行なわれない行為として、「朝食をとる」、「昼食をとる」、「夕食をとる」、「団らんをする」、「新聞・雑誌等を気軽に読む」、「家計簿を付ける・雑誌等を気軽に読む」、「突然の来客と対応する」、「前もってわかっている来客と対応する」、「洗濯物をたたむ」、「編み

物をする、などがあげられる。

このことから、大きな居室や南向きの居室では、家族の主要な生活行為である団らん、客との応対を中心に、関連する生活行為が営まれており、室数等の制約があるなかで、環境良好な居室を、家族生活の中心にあてがう様子が伺える。

#### 4. おわりに

以上のことから、今後の集合住宅においては、一般的に言われている居室数の増加、各居室床面積の拡大以外に生活の中心となる行為と、その行為のあつかい方に注意を払うと共に主要な生活行為を中心に関連した生活行為を1部屋で行なえるよう留意、特にK室またはDK室

に接した居室には、“団らん”を始め数多くの生活行為が集中するため、多目的に使用出来るような配慮が必要と思われる。

#### 参考文献

- 1) 建築学大系編集委員会編建築学体系27, 集団住宅(彰国社発行)。
- 2) 中島一, 松本壮一郎 愛知工業大学研究報告集 No. 7 (1972年), 集合住宅における住意識調査。
- 3) 中島一, 松本壮一郎 愛知工業大学研究報告集 No. 10(1975年), 住宅における部屋の広さに関する意識調査。

(受理 昭和57年1月16日)